

平成30年第4回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成30年 9月 3日 (開会)

平成30年 9月13日 (閉会)

○議長（小林信） 次に4番、佐藤真二君の発言を許します。4番、佐藤真二君。

（4番 佐藤真二議員 一般質問席登壇）

○4番（佐藤真二） では、私の質問は2つ程あります。まず1つ目でありすが、ほとんど伊藤議員とかぶっております。ですが、一応、議長の方に通していただきましたので、私の方からも一般質問させていただきます。

まず1つ目、通勤助成金制度について問います。

村には通勤通学等定期補助金制度があります。昨年、29年度は79万円程の助成金が支払われております。これはこれで学生を持つ親にすれば大変助かっていると思いますが、この助成制度はどちらかと言いますと、公共交通機関の利用促進、いわゆる秋北バスや内陸線への支援が大きなウエイトを占めているように感じられます。

補助金交付要綱の第1条には、「公共交通機関の利用促進と定住人口の増加を図ることを目的とする」とありますが、現在、村外の職場に勤めている方でバスを利用している村民は皆無に等しいと思います。

村には、男子型の職場が少なく、多くの村民が村外に働きに出ています。それぞれの職場には会社の規定に合わせた通勤費の支払いがあると思われすが、それ以上に負担になっていると思います。

少し話は変わりますが、最近、大変気になっていることがあります。前回の議会の一般質問で大城戸議員が取り上げました村営住宅の問題ですが、この通勤費の負担と子どもが学校を卒業して親元を離れることによって住宅費が上がり、子どもが卒業と同時に職場がある所に家族ごと引っ越しする家族が増えてきているということです。

住宅費の問題もありますが、それについては、前回、大城戸議員の質問に対して、村長の方は県のルールに沿って家賃は決めているという村長の答弁でした。私としては、それもどうかと思いましたが、この件に関しては次の機会にします。現在、そのような理由で村を離れる若い人が増えています。

村を支える大事な若い世代が村から去っているのが現状で、実際、村営住宅も過去になく空いております。

そこで、村に残って頑張らせていただいている村民に、村として少しでも応援していただきたいと思います。

秋田県の自治体では、上小阿仁村と同じく公共交通を利用した場合のみの補助制度が多いですが、他県では自家用車に対して通勤費として月5千円から1万円程の間で助成制度があります。我が村でも制度を設けていただきたいと思いますが、村長の考えは如何でしょうか。

村長の答弁をお願いします。

○議長（小林信） 村長。

(小林悦次村長 登壇)

○村長(小林悦次) 通勤助成制度についてであります。

当初、この通勤通学等定期補助金要綱制度を作らせていただいた段階では、今、お話があったとおり高校生等の通学、そして、一般の方々の通勤ということを対象にさせていただきながら、いわゆる確認の確実な公共機関、交通機関等の対応ができたものについて対応をさせていただいております。

これにつきましては、いろんな経緯がありまして、公共交通機関に対しまして、村でも大変な額を、毎年補助金を出している関係がございます。そういう意味で会社に補助金を出すことも必要と考えますけれども、当事者、実際に使っただけの人に、いただいている住民の方の部分について支援をさせていただきたい。それによって乗車密度が上がることで、村からの、いわゆる民間会社への支出が減るのではないかというふうな考えのもとに対応をさせていただいております。

ただ、問題としまして、先ほど言われましたとおり、いわゆる、通学の方もありますし、通勤の方も、完璧ではないというふうに思っております。実際に使っただけにいたっている人は、通学、通勤等というふうな形の中でおられますので、それはそれで今後も使っただけにいたりたいというふうに思っています。

しかしながら、今後のことを考える時に、やはり、もっともっと使いやすいような対応が必要であると考えております。その時に、やはり問題になる、考えられるのが支払いの額をどう設定するのか、それから、毎月支払うのか、通勤手当を支払っていた会社が支払いを止めてしまわないかという色々な懸念がされるわけであります。

色々な問題点が想定されますけれども、これまでお話があったとおり移住定住につながるものとして、大変期待が持てるというふうに思っております。そういう意味で、他県では5,000円から1万円の範囲内ということも対応しておると、今、お話を聞きましたので、色んな形でもうチョッと情報を集めながら前向きに対応できるのかどうかを検討させていただいて、出来ることなら対応させていただきたいということで、これから進めさせていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

○議長(小林信) 佐藤真二君。

○4番(佐藤真二) 答弁ありがとうございます。

今、村長から前向きに、私ここに書いておりますが、単純に村外に働きに出ている人、これ村長難しく考えてバスの乗車率を上げるとか、色々そういうためにこの通勤、通学定期補助金を作りました。でも私が言っているのは、今、村長が言われたように、ここに移住定住していただける、その定住していただくために、その本当に通勤費として払っていただきたいと。

色んな問題はあるかと思えます。ただ、今、村長が言われたように色んなとこ

ろを私が調べても、色んなところに公開になっております。距離数で何キロまでいくら。支払いも1年に1回とか。色んな勤め先の会社の証明書をもらう。何年勤めなければならない。後は差額、会社から出ている分の差額しか払わない。そういうふうな色々やり方がありますので。検討していただいて、そして、その会社でなくて個人にしっかり届くようにしていただきたいと思います。

出来れば、今回は9月なので、12月の予算を組む時に、是非、これは考えていただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（小林信） 佐藤真二君。

○4番（佐藤真二） では次の定住促進助成金制度についてということで問います。

先ほど伊藤議員も移住定住の件で質問しておりましたので、ダブリますので、私、なぜ最近この移住定住が、ここ2、3年騒がれているのか、その流れを少し日本の国の流れから、秋田県、そしてこの上小阿仁村の話をしていきたいと思いません。

この移住定住が騒がれたのは、2014年、日本創生会議が2040年には、1,800市区町村の約半数の896自治体で、20代から39歳の若年女性人口が50%以上減り、そして人口1万人以下になる523市町村などは壊死する地方都市と言われました。それで、全国的に話題になり騒ぎになりました。しかし、2014年に益田リポートが発表される前に、私、中田村長の時も一般質問しておりますが、2012年に国立社会保障人口問題研究所では、日本の人口は、2010年の1億2,800万人をピークに人口減少が始まり、2050年には9,700万人になるだろうというふうに発表されておりました。そのときに、上小阿仁村もすでに載っております。

これは国の問題です。秋田県の人口減少問題に1番最初に取り組んだのが、この地元出身の、今は亡くなりましたが北林照助先生でありました。北林照助先生は、皆さんもご存知かと思いますが、20年以上前から自分の県政報告会やら、色々な場面で、自分でグラフをつくり、秋田県にとってこれは大変な問題になると。今から県として対策を考えなければならないと、方々で色々な集まりで訴えていたのを私は覚えております。

それから20年くらい経って、はじめて今知事がやっと真剣に取り組んでおります。

何を言いたいかと言いますと、今、先に国や県の人口減少の問題を話しましたが、我が上小阿仁村の人口は、昭和39年から40年の間で、最高で6,000人以上おりました。しかし、私が中学時代、今から45年くらい前ですか、その頃でも5,000人減っておりました。しかし、私もそうでしたが、その頃の村民はそれほど人口が減ることを深刻に考えていなかったと思います。

そして、村の人口減少は、今、更に進んでおりますが、急に進んだわけでないというのが、これでわかります。毎年、60人～70人、村長も分かっています。それで、益田レポートが発表されてから秋田県も騒いで、そしてこの上小阿仁も移住定住と騒いでおります。

そして、人口減少を何とかしなければならぬと。日本全国で、この人口減少を食い止めようと必死になり、いろいろな政策を打ち出しております。

全国がやる前に本来は、今回、私達上小阿仁村がもう先んじてやっていたらならなかったはずなんです。今、2000チョットです。この人口問題研究所の推計では、上小阿仁村は何もしなければ、2020年には2,060人、高齢者は1,089人。この数字でいけば高齢化率は52.8%。しかし、先ほど大城戸議員が、もうすでに54.何%と発表されました。

2030年には、村民は1,514人。高齢者870人、高齢化率57%。2040年、もしかしたら私まだ生きております。村民1,084人、高齢者670人、高齢化率ついに60%超えます。これはただ何もしないで、今の数字どおり行けば、これはもう2012年に発表されているわけです。少しずつ変わっていますけれども毎年少し変えています。ですから、何も今ごろ移住定住と本当は騒いでいるのではなくて、村はもうすでに手をつけていなければならなかったのです。

しかしながら、先ほど伊藤議員も申しましたが、他市町村では、移住者を取り込んで少しでも人口減少に歯止めをかけるために色々な政策を打っています。

本来、上小阿仁村を存続させるためには、村も1人でも多くの移住者に来ていただかないと村が存続できない。北林村長、小林宏農村長、中田村長、そして今の小林村長、それなりに少しずつはやっております。でも、他の市町村以上にやらないと、上小阿仁村は残らないではないだろうかと思えます。

村の移住者に対する政策はどういうものがあるだろうか、私、調べました。

先ほど伊藤議員も、外から来る人が調べても良く分からないということで、私もインターネットで調べても、ホームページで見ましてもなかなか分からなくて、うちの事務局長に資料をとっていただきました。

これが村の補助金制度あります。これくらいあります。この中にあったのは、たった移住定住で対象になりますよと印がついたのは、秋田結婚支援センター入会料無料登録化、IP告知端末の無償貸与、そして上小阿仁村後継者結婚祝金、これが一応、移住定住に対象になりますよと、たったの3つであります。

これだけでは、この1番秋田県で人口が少ない村、その上小阿仁村が本気で移住定住していただきたいと思っているとは感じられません。

秋田県のお市町村や他県の自治体では、色々な政策を打っております。先ほどの人口問題研究所の推計の数字を、もし、村長がずっと調べてみましたら、村としてもこのままでは将来村が消えていくと感じられます。

そこで、私が数字で先ほど話されましたが、12月の議会で、少しでも予算を組むためには、今から言っておかなければならないと思ったのは、移住者が1番高くつくのが、自分の住むところを求めるところです。

空き家を買ったり、そして直さなければならぬ。また、空き家が気に入らなければ新築していただくと。そういう時の補助制度が1番高いです。他のところは100万とか200万とか、出しております。色々あります。

そういうものを上小阿仁村も思い切った政策をしていただきたいと思ひまして、ここで私は空き家、本来は移住定住の政策の一つでも多くやって欲しいのでありますが、その金額的に弾みますので、空き家や新築住宅を修復するための助成金制度は出来ませんかということで、私は一般質問をしております。

村長として、細かい予算を組むのは簡単ですが、大きな予算を組むのは大変です。ですが、議会からもこういうふうに申し上げておりますので、議員として申し上げます。

どうかひとつ、そういうような補助金制度を組むような考えがないか、お聞かせください。

○議長（小林信） はい、村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） 移住定住促進助成制度についてというふうな事の中で、空き家、そして新築住宅の取得のための助成制度というふうなご質問であります。

最初に、空き家の購入に対する補助金についてでありますけれども、現状では家財道具の処理、そして権利関係で所有者がなかなか手放さない状況で、稀にあったとしても条件がそれぞれ違っているというふうに聞いております。

このために、空き家バンク等についてもなかなか登録していただける方がおられないという状況であります。このため、できれば従来どおりの住宅リフォーム支援事業補助金等を活用していただきながら、支援をしていきたいと考えておりますけれども、国、県や他の市町村の動向も調査しまして、少し検討させていただきたいと思っております。

それから、住宅を新築する場合の対応としましては、県の事業の中で県産材を使用すれば使用面積に応じて最大30万円相当のポイントの支援を受けられますということがありますので、村としましては、これに嵩上げ等の助成をすることで検討をさせていただきたいと思っております。

他市町村につきましては、具体的に上限を設けた形で空き家、新築等、改築も含めまして、かなり多額の支援策を講じているところもございますので、もう少し調査研究をさせていただいて、村のあった形での対応をとらせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひを申し上げます。

○議長（小林信） 佐藤真二君。

○4 番（佐藤真二） 今、前向きな答弁をいただきましたが、大変失礼なことを言えば申し訳ないですけれども、いつもここで一般質問すると前向きな答弁はいただくのですが、ただ、それが進まないのです。ですから、この後 12 月議会もありますけれども、なぜ、私が先ほど話しましたように 9 月で、ここで予算に絡む話を、来年度に絡む話をしているかというのは、やはり早急にやらなければならないと。皆さんも忙しいでしょうけれども、やはりこれは時間を割いて、全国調べて見てください。今は向うに行かなくてもネットで全部公表しています。全国あります。もう高速料金も払います。それこそ長野のどこでしかは、高速で東京に通ってもいいですよ。ですから移住してください。もうそういう都市まであります。それは 5 万人、6 万人の都市です。

ですから、お金もあるでしょうけれども、そういうところも移住定住で一生懸命力を入れているのです。1 千円、2 千円の話をして、上小阿仁村は、なかなか来ません。

先ほど村長が言ったように、空き家登録、私も空き家を調べていて話を、それで新築という話をここに書いております。なかなか上小阿仁には使える空き家がないです。安く譲っていただいても、もう建てるだけかかるような空き家ばかりなので、それだったら新築をされた方がいいと、そういうものに対して、今、村長が言ったように、県の補助金制度に上乘せして上小阿仁も応分に乗りましょうと。

また、プラス子どもがいたらいくらか出しましょうとか。そういう色々なアイデアを出して、そして本当は、先ほど、これからホームページも見直ししますと、もうワンクリックしたら、そういうことがポンと出てくるように、上小阿仁村と言ったら移住定住で頑張っていますよと、一覧でバーと出て分かるように。誰でも入っていけるように、我々村民が、議員が調べてもなかなか分からない。そういうふうなホームページではどうしようもないです。

皆さん、今 60 代、70 代の方でも、もうパソコンを使って全部調べる時代でありますので、どうか、そういうもので応分に、今、本当に申し訳ないですけれども、これは交付金のおかげでもありますけれども、剰余金は毎年残っております。でも、それを支えていく村の村民が年々毎年減っております。若い人が減っています。そこを、村長、しっかり考えていただいて、来年の予算に取り組む時に是非お願いしたいと思います。

答弁は入りませんので、私の質問をこれで終わります。

○議長（小林信） これで、佐藤真二君の一般質問を終わります。